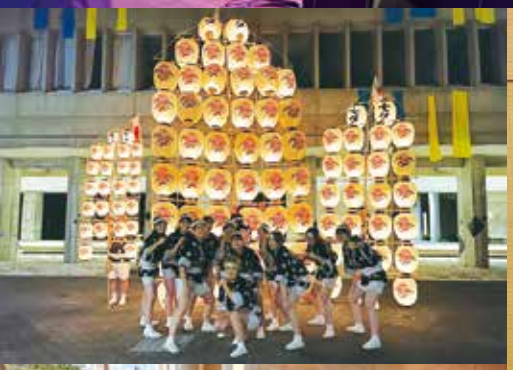
秋田公立美術大学後援会会報誌 エオスニュース

EOSNEWS VOL.12 2025.02



Contents

2 後援会会長・学長挨拶
3 各専攻の紹介
4 東亜大学校芸術体育大学との国際交流協定締結
FA事業
5 学生受賞、採用等実績
6 大学祭
8 課外作品展
11 サークル活動
12 学生会活動
13 大学院の紹介
後援会保護者等向け就職ガイダンス
14 進路・就職支援
15 お知らせ

ご挨拶

秋田公立美術大学後援会　会長　**佐々木 展**

早春の候、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より後援会の事業にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

昨年10月に開催された秋のオープンキャンパスは大学祭と同日に開催され盛況のうちに終了いたしました。当日は教員によるトークイベント、デッサン講習、ワークショップなどが実施され、参加した高校生はそれぞれ興味のあるブースで学びを深め、本学の雰囲気を感じていかれたことと思います。同日開催された大学祭のテーマは「－奪取－」（ダッシュ）。タイトルの由来は、参加者のみなさまの目と心を奪い取る、というところからきているそうです。50を超える模擬店や竿燈サークルのパフォーマンスなど、新型コロナウイルスにより沈んでしまったあの頃の活気を取り戻すかのごとく懸命に励んでいる学生の姿が目に浮かびます。

さて、この度お送りさせていただく後援会報には、こうした学生たちの活動など本学の最新の情報を掲載しておりますのでご一読いただければ幸いです。

最後になりましたが、今後も私たち、秋田公立美術大学後援会は、大学の維持発展と学生生活の向上に寄与することを目的として、大学祭や学生会、サークル活動や課外作品展の開催、そして資格取得や進路・就職活動など、学生の様々な活動を支援してまいります。

引き続きご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

芸術を愛する気質

秋田公立美術大学　理事長・学長　**北郷　悟**

常日頃から後援会の皆様方には、本学へのご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

近年では、教員・学生の活動もより活発化し、海外大学との交流や各種展覧会やコンペなどで大きな成果をあげる人材も現れています。

具体的な支援としましては、「フューチャー・アーティスト基金」「あきびネット」を中心に成績優秀者や海外留学希望者、また、教員研究支援など積極的なサポートに活用しております。さらに、キャンパスグランドデザインを策定し、学内のみならず学外の施設充実についても秋田市の「芸術文化の香り高い街づくり」にあるように、文化のある街並み計画に協力していきたいと思っております。

また、秋田で出会った事のひとつを紹介しますと、私自身の行なってきた研究で、江戸末期から明治初期の彫刻研究内容を確認する機会があり、その中に西洋からやってきた文化が日本文化と混じり合う表現のある絵画や彫刻が存在しました。町文化と西洋文化の一種「和洋折衷」としての表現の独特の面白さがありました。

その中で、秋田では特に大切にされている「秋田蘭画」と呼ばれる絵画様式に惹かれました。教科書でも知られる平賀源内(蘭学者・医学者)は、秋田（佐竹）藩の藩主、佐竹曙山からの命によって小田野直武（武士・絵描き）に、西洋画の「遠近法」「陰影や立体感」を教えました。また小田野直武は、医学書である「解体新書」の挿絵を描いたりしました。そして藩主とともに新しい絵画の世界に没頭します。日本画調の風景を背景に植物がリアルに描かれている絵画は、今でいう現代絵画の挑戦といった活動のようにも感じます。作風は後の浮世絵や色々な絵画に影響を与えました。江戸では、伊藤若冲が人気を博している時代でした。今の私たちの大学と秋田はそんな歴史のタイムスリップをしているようにも感じました。是非、千秋美術館の常設展示をご覧になって、「秋田蘭画」の秋田の「芸術を愛する気質」のストーリーに浸っていただきたいと思っています。

最後になりますが、秋田公立美術大学後援会の皆様方には、これからの大学運営の様々な展開、地域との連携、就職活動、教員・学生のアーティスト活動へのご理解等に対し、引き続きご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

各専攻の紹介

アーツ＆ルーツ専攻

アーツ＆ルーツ専攻では、様々な素材と技法（表現媒体）を使って、「歴史」や「地域」を芸術表現の源泉とした作品づくりを行います。

まず、歴史や地域社会の文化的古層に残存する、異文化の伝承・地域・祭事・造形物といった文化資源を、文化人類学などの方法論によって発掘します。次に、それらが元々の文化のなかで担っていた意味や価値を、見慣れた現代社会の造形物の形の中に組み込んで行きます。平面・立体・映像・音響・写真・インスタレーション・影絵・言語芸術・パフォーマンス・アニメーションといった、多種多様な媒介と技法によって表現します。

学生たちは自身の関心に応じてフィールドワークをおこない、日常の中に埋もれている地域の記憶、暮らしの中にある造形や祭、里山・里海の動物や植物などを「存在の根っこ（＝ルーツ）」として発見し、これまでにない斬新な表現を生みだしています。

令和６年10月８日には、４年生のフィールドワークをしました。秋田県由利本荘市にある、天鷺村を訪れました。旧亀田藩二万石の歴史を今に伝える伝承の里です。亀田城跡は、今は美術館となっていて、多くの亀田の歴史を学ぶ資料や、秋田県に関わる貴重な資料が保存されていました。学生たちには、後日レポートを提出してもらいました。秋田県には印象深い史跡が多くありますので、卒業してからも秋田県のことを覚えていて欲しいです。またそれらを卒業後の研究にも、活かしてほしいと思います。

今後もアーツ＆ルーツ専攻の活躍にご期待下さい。

〔 各専攻の紹介 〕

ビジュアルアーツ専攻

ビジュアルアーツ専攻では、社会の中に新しい視点を持ち込むための美術表現の確立を目指します。美術には「彫刻」や「油画」など、素材や技法、または表現形態によって分けられたカテゴリーがありますが、学生たちは一つのカテゴリーにとらわれず、他のカテゴリーや要素との融合を重ね、表現手法を学び制作しています。授業は、複数の教員による分野横断を基本とした共同指導のもとに行われます。３年生は前期で「空間」と「時間」をテーマにした作品制作を経験します。後期に入ると３回、それぞれ異なるテーマのもとに企画された展覧会を学外で発表します。これらの展覧会は設営や広報等すべて学生だけで運営します。４年生は卒業研究に向けて自分の表現を深化させていきます。将来、この経験を忘れずに、それぞれが学んだ手法や考え方、その発想力を社会の中で活かし、活躍することを願っています。

ものづくりデザイン専攻

ものづくりデザイン専攻は、秋田の伝統的な工芸教育とデザイン教育を融合した、日本でも珍しい教育分野です。日本では、かつてデザインと手工業が一体となり美を追求していましたが、明治以降、西洋の影響で分離されました。現在では再びこれらを結びつける視点が求められており、学生たちは専攻の理念に基づき、やきものとガラスの境界や、デザイン的視点で素材を扱う新たな作品を制作しています。教員一同、学生の意欲と創造性を誇りに感じ、秋田のクリエイティブが世界に注目されることを目指しています。

今年は、毎年開催している秋田公立美術大学ものづくりデザイン教員作品展「湧水地点」において、スウェーデンのリンショピン大学マルムステン校と初のコラボレーションを行いました。北欧スタイルの礎を築いた教育機関として知られる同校は、木工やデザイン分野で高い技術を提供しています。本展では、両大学の教員が10チームを組み、「50×50×50cm」のスケールをテーマにした作品を展示しました。秋田市内旧松倉家住宅での展示後、スウェーデンでの巡回展も予定しており、このコラボレーションは専攻の活動を国際的に発信する貴重な機会となっています。

コミュニケーションデザイン専攻

コミュニケーションデザイン専攻では、コミュニケーションに内在する今日的な課題に取り組むための思考と表現について、ビジュアルデザインの立場から研究します。課題の発見から企画、調査、計画、提案、制作、フィードバックまでの一連のプロセスを踏まえながら、幅広い観点から現代社会のあるべき姿を探求します。また、個人から発信される様々な情報のパラダイム（支配的な捉え方）を組み替えることによって、現代社会における新しい「個人」像の形成に寄与します。

３年次のコミュニケーションデザイン演習２では、地元企業との連携による複合的なデザインワークに取り組む産学連携プロジェクト、スタジオ撮影から現像まで専門的に取り組む写真プロジェクト、漫画作品の作画からブック化まで一連の工程に取り組む同人誌プロジェクト、ソーシャルデザインに基づく情報のビジュアライズに取り組む発見のデザインプロジェクトを学生が自由に選択し、それぞれ最適な表現成果の実現を目指します。

景観デザイン専攻

景観デザイン専攻では、ランドスケープや建築のデザイン、社会批評を担うパブリックアートやドキュメントのプロジェクト、まちづくりの計画立案とそのための公共型ワークショップなど、実践的な学習を通して実社会の文化芸術領域で高いリーダーシップを発揮できる人物を育成することを目指し、学生一人一人が多様な表現領域の制作活動に取り組んでいます。今年度はコロナ禍も明け、学生たちも地域と密接に関わりながら課題を進めています。２年生の現代芸術演習では、移動式映画館を設計し、秋田市新屋ガラス工房を敷地として実践しました。学生たちが計画したのは、映画上映だけでなく、地元のミュージシャンの方々にお声がけし、音楽イベントを併せて行うというものでした。当日は多くの観覧客が地元の新屋だけでなく、秋田市全域から訪れ、学生たちが制作した屋外空間でイベントを楽しんでいただけました。根気強くチーム一丸となって取り組んだ成果を地域で共有できたことは大変大きな出来事でした。

東亜大学校芸術体育大学との国際交流協定締結

国際交流センター長　**裵　鎮奭**

本学では、今年度新たに、韓国の東亜大学校芸術体育大学と国際交流協定を締結しました。

同大学校は、1946年に創立された韓国の釜山広域市にある長い歴史を有する私立の総合大学です。15大学（日本でいう学部）があり、大学校全体では約20,000人もの学生が在籍しています。このうち、同大学校芸術体育大学については、4学科（音楽学科、美術学科、体育学科、テコンドー学科）で構成されており、美術学科には440人の学生が在籍しています。

令和4年度から本学との交流事業をスタートし、これまで教員が中心となって相互に現地訪問や交流事業を展開してきました。今年度6月には、本学から教員2名と学生2名が現地を訪問し、デジタル漫画をテーマとしたワークショップを同大学美術学科の学生32名と実施し、交流を深めました。

今後、大学間交流のさらなる発展を目指し、学生の交換留学制度の実施に向けた協議を進めているほか、定期的な交流事業を展開してまいります。

オンライン協定締結式（令和6年9月）

デジタル漫画をテーマとしたワークショップの様子（令和6年6月）

FA事業

本学の開学10周年記念事業として、「フューチャー・アーティスト（Future Artist）基金」を設置し、経済的理由により修学が困難な学生の支援やグローバルに活躍できる学生の育成など、新しい芸術領域の創造へと力強く羽ばたくアーティスト（新世代）の育成と支援を行っています。

令和6年度にFA基金を活用し実施した事業

- グローバル人材育成のための留学費等助成事業
- あきびフューチャー・アーティスト基金奨学金
- 創作・課外活動等奨励金給付事業
- 国内芸術祭研修・体験助成事業
- 生活支援金貸付事業
- 学生食堂割引　　等

国内芸術祭研修・体験助成事業（瀬戸内美術鑑賞ツアー）に参加した学生の感想

猪股 真央（3年）

本当に参加して良かったと思います！

瀬戸内にはいつか行ってみたいとは思いながらもなかなか行くことが出来ずにいたので、今回知らせを見たとき、絶好のチャンスだ！と思いました。

ひとりだったら絶対に回れなかったですし、今まで話したことのない方とも交流できて、みっちみちに充実した7日間でした。

主な学生受賞・採用等実績一覧

【受賞】　※学年は受賞時のもの

令和６年度

●第66回秋田県美術展覧会

工芸

・特賞（秋田県教育委員会教育長賞）「螺鈿蒔絵箱『イワウチワ』」
　余丹璐（大学院修士課程複合芸術研究科２年）
・奨励賞「星夜を駆ける者」
　荒野 栞奈（研究生）
・入選　佐藤 由萌（１年）

彫刻

・特賞（秋田県知事賞）「惑星に溜まる。」
　藤原 櫻和子（大学院修士課程複合芸術研究科１年）
・入選　二本木 千夏（２年）
・入選　小森 翔生（２年）
・入選　永井 一海（１年）

写真

・入選　小森 翔生（２年）

●Art on Climateインターナショナル・イラストレーション・コンテスト

・優秀賞　濱戸 大我（コミュニケーションデザイン専攻３年）

●消防船PRコンテスト

・岡本美鈴賞　小西 鈴奈（コミュニケーションデザイン専攻３年）

●コクヨデザインアワード2023

・優秀賞　吉田 峻晟（大学院修士課程複合芸術研究科２年）

●第53回公益社団法人日本広告写真家協会公募展APAアワード2025

・入選　徐 津君（アーツ&ルーツ専攻４年）

●第８回新世代賞

・最終審査作品に選出　岡本 真実（アーツ&ルーツ専攻４年）

●Art island Akane Biennale 2024

・入選　荒野 栞奈（研究生）

Art on Climateインターナショナル・
イラストレーション・コンテスト
優秀賞

日本学生BtoB新聞広告大賞
奨励賞

令和５年度

●第９回 日本学生BtoB新聞広告大賞

・奨励賞　三澤 真綺（１年）

大学祭

テーマ：奪取−Dash−

■大学祭実行委員会 実行委員長　**豊川 遥菜**（２年）

大学祭実行委員会委員長の豊川遥菜です。秋美は昨年度創立10周年を迎え、大学祭もその歴史はまだ浅いです。コロナの規制も緩和されつつある今、手探りながらも皆様にもっと楽しんでいただけるような大学祭を作り上げたいという思いで臨ませていただきました。様々なご意見をできるだけ吸収し、役員の方々にはできるだけ負担が少なくなるよう配慮しましたが、課題はまだあると痛感いたしました。それでも、大学祭本番は大いに盛り上がり、多くの好評を頂くことが出来ました。1人でも多くの方に楽しんでいただけたのなら幸いです。

改めて、ご協力いただいた全ての方々に感謝申し上げます。今後も、秋美の更なる発展に貢献できるよう尽力いたします。

■大学祭実行委員会 実行委員長　**日影 百合江**（２年）

秋美祭に向けて、各部門が一生懸命準備し、当日は全力でお客様をおもてなしすることができました。その結果、皆さんの努力が結実し、「目も心も奪えるような学祭」というスローガン通りの２日間を実現できました。学祭実行委員長としての10ヶ月間は取り組むべき仕事が多く、各部門の調整が出来なかったり、仕事がうまく進まなかったりと苦悩の日々でした。しかし、当日来てくださった方々が笑顔で帰る姿を見て、今までの努力が報われたように感じました。先生方、学生課、総務課の方々の励ましやサポートがあったからこそ、無事に役目を果たせたと思います。学祭に携わって下さった全ての方々に心から感謝いたします。また、各部門で改善点をしっかり引き継ぎ、後輩たちが来年、より良い秋美祭を作り上げてくれることを願っています。

■学祭実行委員 展示部門長　**野口　茜**（３年）

今年度の学祭展示では従来の有志者募集に加え、実行委員が展示を依頼したい方に直接声をかけるスカウト形式を取り入れました。

新しい試みの企画展ということで手探りの状態からスタートし、行き詰まる場面も多々ありましたがなんとか開催することができました。

また今回の展示では会場のレイアウトから準備まで尾花先生にご協力いただきました。その甲斐あって、来年に繋げられるような素晴らしい展示ができたと思っています。

最後に、人数が少ない中一緒に運営してくれた展示部門員をはじめ準備等で協力してくださった皆様、展示に参加してくださった皆様、そして尾花先生に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

■学祭実行委員 イベント部門長　**玉柿 清花**（2年）

今年度のイベント部門では、スタンプラリー・ファッションショーを企画・運営しました。どちらもとても好評だったので、企画して本当に良かったです。

私は今年初めて実行委員になって、たまたま仲のいい先輩がイベント部門を去年やっていたので、成り行きでイベント部門に入りました。想像以上に大変だったというのが正直な感想です。無知なゆえに上手くいかなかったこともありましたが、イベント部門の1年生がとても積極的で心強かったのと、同じイベント部門だった同級生・前イベント部門長のサポートのおかげで、スムーズに準備を進めることができたと思います。

協力してくれた方々、足を運んでくれた皆様、本当にありがとうございました！

■大学祭実行委員会 装飾部門長

杵淵 心花（2年）　**佐藤　翠**（2年）

今年のテーマが「奪取-Dash-」に決定し、装飾部門の皆と採択されたロゴデザインを見た時に、爽やかで風を感じるようなポップなデザインにしたいということで意見をまとめました。ロゴにも使われていた青と黄色をベースにして研究棟へ布ガーランドの装飾、巨大三角コーンの設置、ももさだの柱への風車の装飾、三角コーンへのグラフィティと設置、黒板シートやテニスコート周辺のグラフィティ、椅子づくりなどたくさんの工程を経て、大学祭を彩ることができたのではないかと考えています。初めての試みで忙しくなり精神的に滅入る日もありましたが、周りの人に支えられ作る楽しみを感じることのできる良い機会になりました。改めて協力してくださった部門員、部門員以外の方、そして先生方に感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。

■学祭実行委員 広報部門　**佐藤　粋**（2年）

今年度の広報部門では、昨年のポスター部門・パンフレット部門を総括した活動を行いました。

昨年の広報部門の引継ぎとしては、SNSを活用し大学祭の宣伝活動と進捗報告を行い、情報の発信だけではなく要望の受付や大学祭の振り返りアンケートなど、学生・来場者の窓口としての役割も果たしました。加えて、大学ホームページに記載する大学祭のバナー制作、イベントや施設の場所を案内する標識の制作と設置、「広報あきた」の取材、「ニュースこまち」のPR動画の提供を行いました。

ポスターについては、デザインを学生の協力者に依頼し、制作していただいたデータの入稿、掲示を行いました。昨年の反省を踏まえ今年は掲示数も範囲も拡大し、より多くの認知、そして集客に貢献できたと思います。

パンフレットについては、ポスターのデザインを軸に「奪取-Dash-」から連想されるモチーフを組み込んで制作を進めました。今年は模擬店の出店数が多く、情報の収集や記載方法など苦労する点が多く、最終納期の寸前まで調整と修正、補足事項の追加を行いました。

入稿が済んだ後も修正点が新たに発見されるなど落ち着けない状態が続きましたが、学生課や他部門の協力に救われ、完成、そして思い描いた大学祭の成功に繋げることができました。

全体を振り返ると、これまで行ってきた活動の引継ぎに加えてもっと良くするためには何ができるか、前向きに追及できたと思います。

■学祭実行委員 配信部門長　**藤澤 秀一朗**（2年）

コロナが完全に明けてからの大学祭でした。去年よりマスク姿が少なく学生の笑顔がよく分かる大学祭であったと感じています。去年よりもイベントの数や出店数が来場者とともに増え来年はさらに賑やかになるのかなと思いました。

配信部門は各イベントの記録をしていきました。竿燈演技、ダンス、軽音、ファッションショーなどに部門員と協力しながら撮影していきました。8月上旬頃からファンミュージックさんやカワサキスタジオさんとの連携で当日までに機材や撮影方法を練り、本番に向けて準備をしました。実際の撮影は想定していたトラブルやアクシデントもありましたが、それよりも当日の楽しさが断然上回っていました。盛り上げてくれた方々に感謝を伝えたいです。

■学祭実行委員 模擬店部門長　**飯沼　響**（2年）

今年の大学祭では、多くの方々の協力のもと、模擬店が大いに盛り上がり、成功を収めることができました。出店者の皆さんの工夫を凝らしたアイデアと努力により、多くのお客様に喜んでいただけたことを嬉しく思います。一方で、運営面では部門内や委員会全体、学生課との報連相や連携、計画通りに進まなかった時の代替案等、改善すべき点も見つかり、来年に向けてさらに良い企画を目指す機会となりました。この反省を生かして、来年度の秋美祭をさらに素晴らしいものにしていっていただけることを願っています。最後に、支えてくださった皆様に改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

■学祭実行委員 会計部門長　**山下 暁羽**（3年）

前年度は実行委員長としてまとめる立場でありましたが、今年は会計部門として裏で支える部門を担当させていただきました。会計部門では大学祭の運営に関わる金銭の計算ややり取りを担当します。今年度の大学祭は前年度以前と比較して大学祭がより活発になってきており、喜ばしいことだと考えています。その変化に対応できるよう、予算の見直しや経費削減も行いながら、限られた予算の中での高クオリティを目指しました。円滑なお金のやり取りと皆様のご協力、ありがとうございました。

主に3，4人での活動だったため一人一人の負担が大きくなってしまい、余裕のない状態が続いてしまった事は来年度の課題になりますが、ここで最後まで各々の役割を全うして得られた成功体験と、技術的な事や大きなプロジェクトを進める中での成功・失敗を含めたプロセスなどの多くの学びは、来年の大学祭は勿論のこと、その他の多くの活動に活かされる貴重なものになったと思います。

部門の枠を超え、大学祭の皆の望む成功を目指して、助け合いながら歩んできた学祭実行委員を中心に携わっていただいた多くの方々に感謝しています。ありがとうございました。

EXHIBITION

2年生4人展「始点」

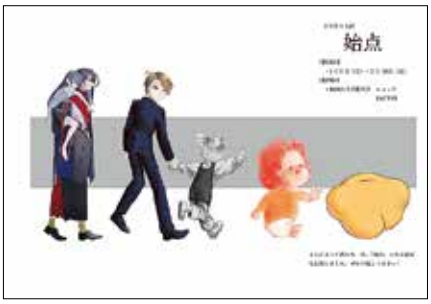
2024.7.1-7.10　ヒュッテ・KATTE2

代表　**三澤 真綺**（2年）

2年生4人によるグループ展「始点」を開催しました。

4人にとって新たな1歩、「始点」になるような展示を目指してこの名前をつけました。デジタル機器や水彩、クレヨンなど各々が未挑戦の技法やテーマに取り組むことで、イラストや漫画など表現の幅を広げることができました。作品を通して自身と向き合うことにより、ネガティブな面を自分の持ち味として再認識することが出来ました。初めてのグループ展ということもありうまくいかないこともあったのですが、無事開催することが出来ました。今回の得た学びをこれからの制作に繋げていきたいと思います。

お越しくださった皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



EXHIBITION

Dreaming Garden

2024.4.13-4.22　新屋NINO

代表　**福岡　初**（3年）

ビジュアルアーツ専攻3年の福岡初とコミュニケーションデザイン専攻3年の近藤萌による2人展「Dreaming garden」を開催しました。

本展示では、自分たちが今までに経験した感情、ときめくものや好きな世界をもとに制作した平面作品を展示しました。タイトルの「Dreaming garden」には、展示した作品のテーマが心象風景であることから、「私たちの心に広がるお庭」という意味を込めています。

お互いに同じテーマでイラストを描きましたが、それぞれ作者の個性が伝わる作品に仕上がったと思います。額縁やキャプションはイラストの色合いと合わせたものを一つずつ用意し、イラストだけでなく会場全体が可愛らしい雰囲気になるよう工夫しました。

初日はものまちさんぽと同時開催だったため、学生の方だけでなく地域の方にも観ていただく機会となりました。来場してくださった皆様、ありがとうございました。

EXHIBITION

me:all*meal　2024.8.17-9.8

秋田公立美術大学ギャラリーBIYONG POINT

代表　**佐藤 芽維**（4年）

本展では、光を可視化するためにサイアノタイプ[*1]を活用し、光を取り込んだ布と自身の身体の互換性について表現と解明を試みたインスタレーションのほか、制作過程を記録した映像作品を展示。「私は光を食べている」を元に、自身の肉体を布に置き換えながら、刹那の光のエネルギーで生き延びようとする受動的な精神性を展示空間に起こした。

*1 サイアノタイプ（別名：青写真）とは19世紀に発明された写真の印刷方法。日光に反応して、青く発色する。

EXHIBITION

Night core

2024.7.14-7.21　新屋NINO

代表　**田髙 暖乃**（3年）　**田上 優月**（3年）

ビジュアルアーツ専攻3年田髙暖乃、コミュニケーションデザイン専攻3年田上優月による「夜」をコンセプトにした作品展です。

毎夜2人の頭や心に巡る形の定まらない「何か」を可視化して、デジタルやアナログ、立体や平面など様々な形式の作品に加えて、オリジナルキャラクター『NightCore』を2人で共同制作し、その世界観に基づいた作品を展示しました。これからも共同制作を続け、次の展示でまた新しい作品を出す予定です。

末筆ではございますが、短い会期の中お越しくださった皆さん、ご協力くださった皆さんに心より感謝申し上げます。

EXHIBITION

Open　百八　doors

2024.5.1-5.8　新屋NINO

代表　**髙崎 結子**（3年）

ビジュアルアーツ専攻3年髙崎結子による個展、「Open　百八　doors」を新屋NINOにて2024年5月1日から8日の8日間にかけて開催しました。「煩悩を開く」をテーマに、普段の何気ない生活のなかで思いついたことや夢で見たこと、架空の生命体などの随筆とそれを補完する彫刻作品4点から成る展示です。NINOの白くて無機質な空間に合わせて展示台や作品自体も白を基調とし、展示会自体の雰囲気作りにも力を入れました。個展という完全に自由な場で制作できたからこそ自分は何が得意で何が苦手か、どんなものが好きかなど展示を作り上げる過程で再確認することができ、これからの制作活動や将来の方向性についても考えるいい機会になりました。お越しくださった皆様、ご協力してくださった皆様本当にありがとうございました。

課外作品展

EXHIBITION

藤澤秀一朗 作品展 アート・ジャングル

2024.6.16-7.13　秋田公立美術大学サテライトセンター

代表 **藤澤 秀一朗**（2年）

サテライトセンター様で2024年6月～7月の約一ヶ月の間、作品展を開催いたしました。幼少時代から浪人時代を経た現在までの作品を約150点展示いたしました。作品は、油絵、ドローイング、立体、アニメーション、インスタレーションとジャンルを問わず、過去をさらけ出すように作品を選びました。来ていただいた方と会話したり、感想を書き記してもらうことで、私自身が救われたり、逆に自分の行動で救われる人がいると感じたりと新たな気づきも多かった一ヶ月でした。最終的には2000人強の方が来てくださり、大変感謝しております。この勢いを落とすことなく3年時にはアニメーションのみに絞った新作のみの展示をしたいと考えています。

EXHIBITION

イメージ世界の入り口　2024.7.23-7.28

熊本県立美術館分館 ギャラリー

代表 **劉孟琛**（大学院修士課程複合芸術研究科2年）

複合芸術研究科2年劉孟琛による写真個展を開催しました。

展示内容には、これまでの試みを含む6組・約100枚の写真が展示され、「認知とラベリング」に関する考察と成果が幅広く表現されていました。

認知バイアスは人間関係や社会に不可欠なものであり、対象を認識するために必要な行為とも言えます。しかし、対象の片面性にとらわれず、新たな認識を生み出すためには新しい行動を起こすことが重要です。私は鑑賞者と一緒に考えてもらい、認知バイアスの存在に気づいてもらうために存在しています。

6日間の展示で284人が来場し、多くの観客と対話し、考えを深く共有することができました。自分のラベル写真に対して新たな視点を得て、成長を感じる機会にもなりました。最後に、展示にご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

EXHIBITION

あそび×まなびのひろば[vol.6] －森の目－

2024.7.26-8.31　大森山公園グリーン広場

代表 **高田 優一郎**（4年）

アーツ＆ルーツ専攻4年の高田優一郎。大学付近にある大森山でのコミュニケーションアートプロジェクトに参加。作者は各地を旅しながら、簡易的な小屋を建て珈琲を淹れ、そこで偶発的に発生する場をつくる活動をしている。この展示会では、大森山の自然を活かし山に降る雨や朝露を集めて稼働する自然のコーヒーメーカーを制作した。

EXHIBITION

はしっこ展　2024.5.15-5.22

新屋NINO

代表 **佐々木 亜胡**（3年）

"はしっこ"というバンドでおこなった展示、はしっこ展。テーマを「日常」とし、それぞれが自身の解釈「日常」について考えを巡らせて作品を制作しました。

立体・絵画・インスタレーション・ゲーム・漫画・ソファなどの様々な形態の作品が集まり、個性溢れる会場となりました。それぞれの作風が顕著にあらわれた作品が多く、この展示が自身の制作スタイルを振り返るきっかけになったのではないでしょうか。

また、普段のバンドとしての活動の話し合いや進行の面で生かされ、改めて仲間に感謝することができた良い機会となりました。

"はしっこ"は多くの方々に支えられて成り立っていることを常に感じています。今回の展示でも多くの後輩、先輩、教授、友人、そして後援会の方々に力を貸していただきました。ありがとうございました。

"はしっこ"はこれからも邁進して参ります！

EXHIBITION

ポストkawaii：多次元派

2024.3.23-4.3　SUNABAギャラリー

代表 **平野 華穂**（4年）

「kawaii」を様々に拡張しようとすることをテーマとしたシリーズ企画であるグループ展「ポストkawaii」に参加しました。

企画のサブタイトル「多次元派」には、作品を二次元にとどめず、マチエールやスケール感、社会的テーマなどの奥行きに焦点を当て、作者、鑑賞者共に多角的な視点で作品と向き合うという目的が込められています。

私は「kawaii」と精神的或いは身体的なズレ、歪みに焦点を当て制作に取り組みました。

身近に感じられる「kawaii」という感覚は実はとても意味が広く個人差があるように感じており、その中に秘められた作者の意図や思いが作品から滲み出ている展示になったと思います。

課外作品展

第3回 ARK Art Award　2024.8.3-9.1
ランデヴーギャラリー(株式会社アークコーポレーション)

代表 **松本　遥**（1年）

本学1年松本遥は次世代を担うアーティストの発掘を目的とした展示会であるARK Art Awardの第3回目に参加しました。京都府にギャラリーを構える本展では、F15号までのサイズ規定の下、審査員による審査の他ギャラリー来廊者による投票で受賞作品が決定されました。

私が制作した平面作品は、実家の猫が5匹の捨て猫の唯一の生き残りであることから着想を得ています。5匹が運命に抗う様子を油彩で描き、上からアクリル板を取り付けました。アクリル板には透明ジェルメディウムで自作した点字が存在し、「ごひきのねこわげんきです。」という文章が読めます。疑問の残る点字ですが、理解の及ばない次元にある運命をコンセプトの核にしています。

今回、受賞は叶いませんでしたが、自分の内心と向き合いながら制作することが出来ました。最後に、この度の活動支援に感謝申し上げます。

第66回秋田県美術展覧会
2024.6.21-6.26
秋田市アトリオン、秋田県立美術館、にぎわい交流館AU

小森 翔生（2年）

第66回秋田県美術展覧会において、彫刻部門と写真部門の2部門で受賞しました。

彫刻部門で出品した作品「凛として時舞う」は、彫刻造形原論で展示した作品「Are you satisfied ?」に登場する少女の転生後の姿を表現しています。顔の部分を花瓶に置き換え、生け花と造花を組み合わせることで、自然の生命力と人工物が時を経て交わる様子を描きました。

一方、写真部門の作品「秋田の冬、田沢湖の冬」は、田沢湖高原雪まつりの際に撮影した写真です。この作品では、真っ白に染まった雪景色の中でそびえ立つ山々とスキー場の風景を切り取りました。田沢湖地域特有の厳しい冬の寒さを感じさせつつ、その中に宿る美しさと温かさを表現できた一枚だと考えています。

二本木 千夏（2年）

第66回秋田県美術展覧会彫刻部門に出展しました。

作品のタイトルは『凱旋』。トルソーでのポーズの表現を常に意識しながら制作をしていました。

展覧会等への出品は今回が初めてで、不慣れなことだらけで制作中にも様々なトラブルがありましたが、先生に支えていただき作品を作り上げることができました。

また、後援会の助成が受けられると知ったのも展覧会が終わってからでしたが、助成を受けることができ、初めて出展する人や学生には心強い存在だなと感じました。

最後に展覧会出展に際し、支えてくださった先生、友人、会期中に足を運んでくださった方々、ご協力くださった全ての方にこの場をお借りして感謝を申し上げます。

田沢湖高原雪まつり
2024.2.17-2.18　たざわ湖スキー場

代表 **鈴木 歩千**（2年）

参加者　須藤 知花(2年)　鈴木 歩千(2年)　新貝 一海(2年)
小森 翔生(2年)　前田 淳一郎(2年)

たざわ湖スキー場で行われた田沢湖高原雪まつりに参加しました。今年度は雪が少なく、天候も悪い中での制作でしたが、限られた時間のなかでも各々が全力を注ぎ、完成に至りました。

私たちのグループは戦車をモチーフに制作しました。雪をどう扱えばより魅力を引き出せるのか、多くのシミュレーションを重ねながら準備を進めていきました。「NO WAR」というタイトルと勇ましく奮い立つ戦車に見た人たちは何を感じたでしょうか。

1年生5人という右も左もわからない全くの雪像未経験の集まりでしたが、この雪まつりで多くの経験を積み、さらなる成長へのきっかけになりました。指導・助言をくださった先生方並びに期間中に足を運んでくださった皆様に感謝申し上げます。

〈club activities〉

サークル活動

BL同好会

代表　川嶋 菜生（3年）

「BL」とは「ボーイズラブ」の略称で、男性同士の恋愛模様を題材とした創作物全般の総称です。

このサークルはそんな「BL」好きな人が集まって、BLに関する色々な活動を行なっていくサークルです。

現在の主な活動は、BL漫画やイラストレーションの制作です。意欲のある学生ばかりで、日々自主的に作家活動をして、意見交換を行なっています。

今年の大学祭ではそれらを収録し、編集したサークルオリジナルの同人誌を販売。想像以上に盛況となり、なんと完売。自信に繋がる体験を得られました。

これからも「好き」を原動力に、積極的に創造を連ねていきます。

魔法少女研究所

代表　三浦 音羽（4年）

今年度新たに設立しました、コスプレサークルです。コスプレや服飾、ポートレート撮影等が好きな仲間を募り、各種イベントに参加しています。設立初年度で活動が少なかったですが、今後の活動にご期待ください。

映像研究同好会

代表　田村 実樹（3年）

映像研究同好会です。

私たちは主に秋田を舞台にした映像制作を軸に、県内各地でロケハン・撮影、それに伴うワークショップなどを開催してきました。また11月には撮影に協力していただいた地域の方を招き、上映会も行いました。

メンバーの何人かは外部の撮影現場やワークショップで映画制作を学びましたが、ほとんどのメンバーは映像制作に関わったことがありませんでした。そのため、制作を通じて互いに学び合う場を作るということをモットーに、地域と関わりながら独自の方法で面白いものを生み出そうと日々模索しています。今後は秋田県全域をフィールドワークしながら制作を行ったり、市のプロモーション事業と連携しながら新たな短編映画を制作していきます。

社会実装サークル

代表　田中 優衣（3年）

社会実装サークルは、今年度から発足された新しいサークルです。現在11人が在籍しており、毎週木曜日の放課後を活動日としています。

私たちは、自ら社会課題を見つけ、それらをデザインで解決しようとしています。現在、経済産業省のAKATSUKIプロジェクトに採択された仙台のベンチャーキャピタルから資金援助を受けながらプロジェクトに取り組んでいます。昨年度はAEDの位置認知度向上を目的としたプロジェクト、今年度は熊被害0を目指し、熊肉の流通を図るプロジェクトが採択されて取り組んでいます。

社会実装活動では、プロジェクトを実際に進めるため、美大だけでは学べない多角的な視野からデザインを学んでいます。

蹴球サークル

代表　藤澤 秀一朗（2年）

蹴球サークルは、サッカー・フットサルサークルです。秋田公立美術大学には運動系のサークルが僅か2つしかありません。どちらも楽しみながら体を動かすことを目的とした活発なサークルです。しかし、種目が限られてしまうことであったり、秋美には意外にもサッカー経験者が多いという事実もあり、彼らの強い後押しも受けサークルの旗揚げを決断しました。主に月に一、二回程休日に二時間活動しており、毎度10名程が参加し活動しています。これまでの（我が大学での）サークル活動とは異なった緊迫感があるサークルです。他のサークルのような爆笑が常に聞こえてくるサークルではありませんが、サッカーがしたいと願う人が楽しめるサークルです。

新屋保護猫いやし処

代表　丸藤 祈琉（2年）

いやし処では、「人と猫が幸せになる」ことを方針とし活動を行っています。

私たちの大学付近の地域には野良猫が沢山いますが、可愛い猫が沢山いる！と素直に喜べる状況ではありません。増えたら増えた分だけ、多くの猫が秋田の寒さや事故で亡くなっています。そのような不幸な目に遭う猫を少しでも減らせるように、美大生ができる保護猫活動を行っています。例えば無責任な餌やり防止ポスターの制作や、サークルでイベント参加する事による保護猫活動の周知等です。

顧問である尾澤先生が保護した猫と触れ合う時間を週に一度とっています。猫の良い遊び相手になると同時に、学生には猫という癒しがあり心が健康になれるというWin-Winな場を作っています。

学生会活動

学生会長　山下 暁羽（3年）

まずはじめに、日頃より学生会活動を支えてくださる皆さまへ感謝申し上げます。

現在の大学生活は不自由のない学生生活・イベントを行うことができています。コロナ禍以前の日常を取り戻したと言える今、大学がより「学生の居場所」となれるように活動方針を定め、企画や運営を行ってきました。今年はイベントの運営や署名運動などを通じてより学生の意見が反映されることを目標に活動を行っています。イベント運営に関しては、生徒同士の交流や日常における大学生活が少しでも楽しくなるきっかけを作れるようにと、学生会主催のイベントを月に1回行うことを目標として、企画してきました。例年通りの「ハロウィン」、「クリスマス」といった季節のイベントに加え、「学校探検」や「スポーツ大会」、「流しそうめん大会」など、新しい企画にもチャレンジした1年となりました。新しいことをやってみるということは大変ではありますが、学生の意見を取り入れるチャンスであり、大学生活をより豊かにするための一歩でもあります。ぜひ来年度以降も新しい取り組みにどんどんチャレンジし、秋美をより盛り上げ、活発な活動を広げて欲しいと考えています。

最後に、我々学生会は今後もより良い大学生活を送れるよう、学生に寄り添った活動をしていきたいと考えております。本年度も残りわずかではありますが最後まで全力で努てまいりますので、これからもよろしくお願いいたします。

学生会副会長　玉柿 清花（2年）

私は副会長として学生会長のサポートだけでなく、話し合いやイベントに積極的に参加したり、提案したりしました。

副会長をしていると、学校のことやイベントを企画・運営をしていて何が必要なのか（段取り・物など）が段々とわかるようになってきました。さらに、毎回のイベントを来てくれる方皆んな楽しんでくれていのが目で見てわかって嬉しくなります。

元々イベントの企画や運営には興味があったので、「次は何しよう」だとか「去年とは違ったことしたいな」「これやりたいな」「何か新しいことしたいな」ということがどんどん湧いてくるようになりました。

来年度はより面白いことができたらいいなと思っております！今後ともよろしくお願い致します！

学生会会計担当　杵淵 心花（2年）

今年度は学生会費の一部を機材購入などにあて、今後の学祭やイベントの運営に役立たせていただきました。学生会費の使い道については学生会で会議に会議を重ね、より有意義な選択をすることができたのではないでしょうか。

これからも皆さんから預かった学生会費を学生の皆さん全体へ還元できる形で使い道を考えていきたいと思います。

ぜひ学生の皆さんには学生会主催のイベントにも来ていただきたいです！学生生活に楽しみをつくるお手伝いができれば幸いです。

学生会広報　佐藤 翠（2年）

学生会を支えてくださっている関係者の皆様、お世話になっております。

広報の仕事としては例年に引き続き、アルバイト募集や学内外のイベント告知、展示会などの情報を主にＬＩＮＥにて共有を行いました。

不慣れではありますが、自分が皆さんにいち早く情報を共有する立場として、様々な連携を取りつつ今行われているイベントなどの取り組みについて知る良いきっかけにもなったと感じています。

そんな為になる情報を秋美の皆さんに共有し、ぜひとも体験して欲しいと考えているので、これからも地域と学生をつなぐ架け橋として情報発信していきます。よろしくお願い致します。

大学院の紹介

大学院複合芸術研究科　研究科長　**岸　健太**

複合芸術研究科では、これまで以上に学生と教員の活動が広く展開されています。国内外での長期滞在型調査、異分野の組織や人と協働する社会実践、そして海外大学との共同フィールドワーク授業など、本研究科が重視する地域・領域を大胆に越境する活動が多数実践されています。また、昨年度の修士課程入試においても本研究科では国内芸術系大学院の中では最高レベルの志願倍率が得られ、難関を経て入学した優れた学生達が様々な表現領域の教員とともに最先端の研究に取り組んでいます。

本研究科は、「複合芸術」をこれからの文化創造の鍵となる思想と方法論として確立させるべく、志を同じくする学外の様々な領域の人や組織とのネットワーク構築に取り組んでいます。世界は依然として戦禍や災害に苛まれていますが、本研究科は、そのような困難の時代を私たちがしなやかな逞しさを持ち生きるための技と知恵こそがアートに求めるべき新たな役割であると考え、その手がかりを見出す研究と実践に取り組んでいます。

後援会保護者等向け就職ガイダンス

10月12日の大学祭に合わせ、対面により「保護者等向け進路・就職ガイダンス」を実施しました。

株式会社マイナビから講師をお招きし、「昨今の就職活動や本学の進路状況等と就職支援活動について」、および「保護者の皆様ができる支援について」ご講演いただきました。講演の前半では、学生調査や企業調査からのデータを基にした昨今の傾向や、早期からのインターンシップ参加のメリットのほか、本学の昨年度の進路・就職先の実績紹介等について具体的にお話しいただきました。後半ではご家庭でできる支援に触れるとともに、保護者様が描く理想の進路や価値観と、就職活動をなさるご本人様の意思の差異に触れ「本人の納得感」「本人の意思の尊重」についての重要性を述べられました。

今後とも、後援会では学生の進路・就職活動について、各種助成や保護者向けガイダンス等を通じてより一層の支援を継続して参ります。

進路・就職支援

●令和５年度卒業・修了生の進路状況

昨年度卒業した美術学部第８期生の進路決定率は97.8％、大学院複合芸術研究科第６期生の進路決定率は100％でした。美術学部の就職先として、学びを活かせるクリエイティブ系企業への就職が全体の約半数以上、次いでサービス業が約26％、そのほか事務・公務・製造が少数おります。また、さらなる知識と専門性を身につけようと大学院等進学する者が11名おりました。

本学では、キャリア教育科目を設置し、企業の採用担当者や美大芸大の就活に特化した学外講師を招聘するなどし、幅広いキャリア支援を行っております。また、ポートフォリオ（作品集）の個別相談会や就活対策講座を開催するなど、相談会や各種講座を開催しています。専門職のみならず幅広い進路に対応できるよう今後もより一層の支援の強化を図ってまいります。

★令和５年度美術学部卒業生進路状況

R6.5.1
単位：人

	卒業者①	就職		進学・留学		作家・フリーランス・起業		卒後活動・その他	進路決定者数	進路決定率
		希望者②	決定者③	希望者④	決定者⑤	希望者⑥	決定者⑦	未定者等⑧	希望進路③＋⑤＋⑦＝⑨	⑨／②＋④＋⑥
美術学部美術学科	105	70	68	11	11	12	12	12	91	97.8%
※前期卒業１名含む		決定率 97.1%		決定率 100.0%		決定率 100.0%				

以下令和５年度内訳　　単位：人

希望進路明確者数	93	100%
就職決定者数	68	73.1%
進学・留学決定者数	11	11.8%
作家・フリーランス・起業決定者数	12	12.9%
未決定者数	2	2.2%

職種別採用企業数	68	100%
クリエイティブ関連業務（グラフィック・パッケージ・プロダクトデザイン、イラスト・背景美術制作、Web制作、映像制作、舞台美術、ものづくり、建築設計等）	38	55.9%
販売・接客・サービス業務	18	26.5%
企画職・営業職	0	0.0%
事務・管理業務	5	7.4%
製造・加工業務	2	2.9%
教員・学芸員・児童支援	5	7.4%
その他	0	0.0%

就職決定者数	68	100%
秋田県内所在企業等就職者数	23	33.8%
（うち秋田市内所在企業等就職者数）	（20）	（29.4%）
秋田県外所在企業等就職者数	45	66.2%

秋田県内所在企業等就職者数	23	100%
秋田県内出身者数	14	60.9%
秋田県外出身者数	9	39.1%

秋田県内出身者就職決定学生数	22	100%
秋田県内所在企業等就職決定者数	14	63.6%
秋田県外所在企業等就職決定者数	8	36.4%

★令和５年度複合芸術研究科修了生進路状況

R6.5.1
単位：人

	修了者①	就職		進学・留学		作家・フリーランス・起業		修了後活動・その他	進路決定者数	進路決定率
		希望者②	決定者③	希望者④	決定者⑤	希望者⑥	決定者⑦	未定者等⑧	希望進路③＋⑤＋⑦＝⑨	⑨／②＋④＋⑥
複合芸術研究科	9	5	5	1	1	1	1	2	7	100%
		決定率 100.0%		決定率 100.0%		決定率 100.0%				

就職決定者３名（うち２名県外出身者）が秋田県内に就職しました。

★進路先

詳細な進路状況について本学ホームページに掲載しておりますのでぜひご覧ください。

●大学における支援内容

①キャリア教育

必修科目として「キャリアデザイン１」、選択科目として「キャリアデザイン２」等の６つの科目を用意し、様々な視点からキャリア形成に係る知識を学びます。

②各種ガイダンス

就職に関する基礎的な理解を深め、より実践的な知識を得るため、様々な分野の方々を講師に招きガイダンスを開催しています。「業界・業種研究セミナー」や「学内企業説明会」にて業界研究やインターンシップ情報や求人情報収集等を行います。

③新規企業開拓

専門性を活かせる美術・デザイン関係の企業や民間企業との繋がりを一層広げるため、対面やオンラインによる情報交換会等への参加、企業訪問等により新たな就職先の開拓を行っています。

④各種カウンセリング

進路相談や履歴書添削、面接練習、ポートフォリオ作成支援等についてキャリアセンター教職員が連携をとりながら対応しています。

⑤学生への情報提供

キャリアラウンジでは卒業生等のポートフォリオ（作品集）の閲覧のほか内定者の就職活動報告書等からの情報収集が可能です。

秋田公立美術大学卒業・修了展2025

「卒業研究」および「修了研究」は、大学における教育・研究成果の集大成であると位置づけられ、作品の完成度を問うことに加え、計画性、協調性、実行力および提案力を鍛える場であり、社会的実践力の礎を築くことを目標としています。本学が公立大学として秋田市の芸術・文化をいかしたまちづくりの一翼を担うため、本学における美術・工芸・デザインの教育・研究成果を地域に報告、還元し、広く県内外へ本学の情報を発信することなどを目的として開催されます。ぜひお越しください。

【開催日時】

令和７年２月13日(木)～２月17日(月)
10:00～18:00（最終入場17:30）
※初日は開場13:00
※最終日は閉場17:00（最終入場16:30）

入場無料

【主催】

秋田公立美術大学卒業・修了展2025実行委員会／
秋田公立美術大学

【問い合わせ先】

秋田公立美術大学 事務局 学生課
Tel:018-888-8105（平日8:30～17:15）

【開催場所】

・秋田県立美術館（〒010-0001 秋田県秋田市中通一丁目４－２）
・秋田市にぎわい交流館AU（〒010-0001 秋田県秋田市中通一丁目４－１）
・秋田市文化創造館（〒010-0875 秋田県秋田市千秋明徳町３－16）
・秋田公立美術大学サテライトセンター
（〒010-0001 秋田県秋田市中通二丁目８－１　フォンテ AKITA ６階）

令和６年度　秋田公立美術大学卒業式・大学院修了式

日時　令和７年３月17日(月)
場所　あきた芸術劇場ミルハス 大ホール（秋田県秋田市千秋明徳町２－52）
※変更があった場合は大学ウェブサイトでお知らせします。
（大学ウェブサイト）https://www.akibi.ac.jp/

発行　秋田公立美術大学後援会事務局（大学事務局学生課内）　〒010-1632 秋田市新屋大川町 12-3
Tel 018-888-8105 Fax 018-888-8101　E-mail gakusei@akibi.ac.jp　HP https://www.akibi.ac.jp